

乙 頁

第164号 通巻29巻 第1号
平成21(2009)年5月15日 発行

守山市立埋蔵文化財センター
Tel・Fax 077-585-4397

〒524-0212
守山市服部町2250番地

4月の後半は寒い日もありましたが、5月に入ってからぐっと暖くなり新緑が一段と深みを増してすがすがしい日々が続いています。センターの周りでは、蛙の鳴き声も序々に高らかになって、これから始まる本格的に調査を待ちこがれているようにも聞こえます。

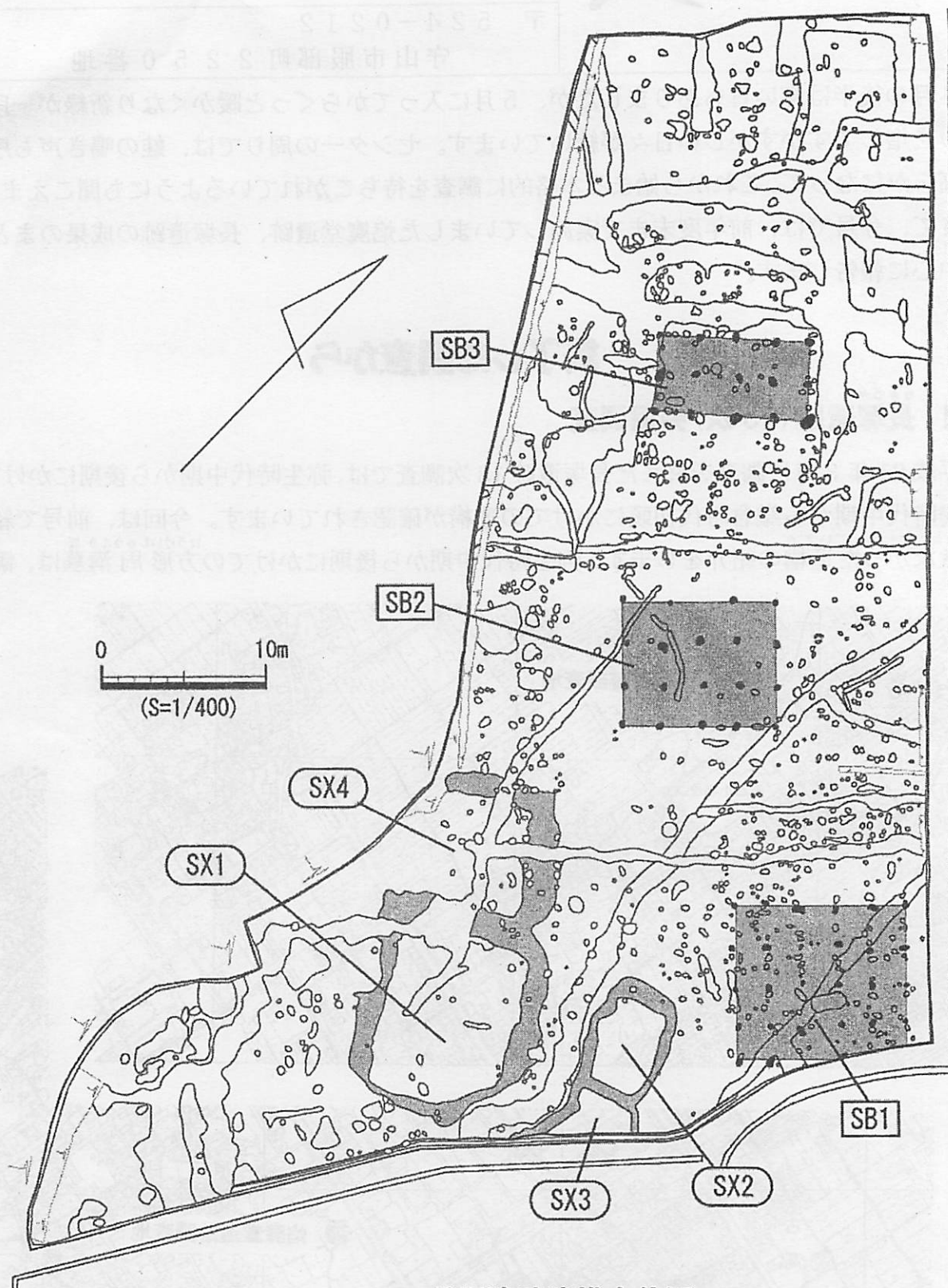
さて、今号では、前年度末まで実施していました焰魔堂遺跡、長塚遺跡の成果のまとめを中心に報告します。

終了した調査から

1 ^{ながつか}長塚遺跡(13次)発掘調査

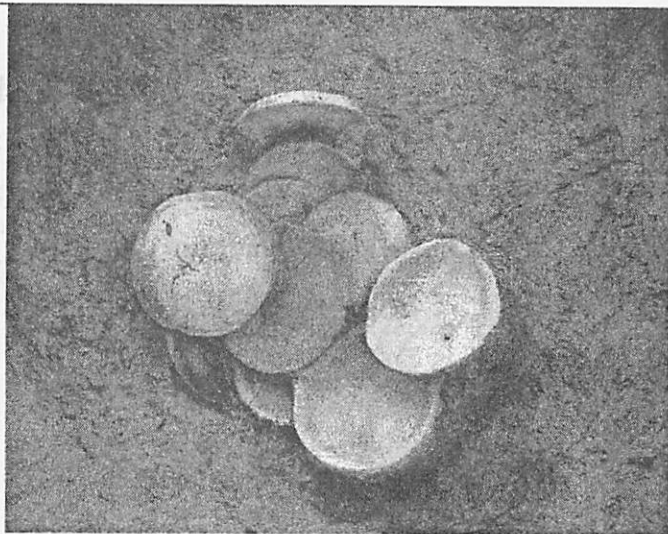
平成21年3月に調査を終えた長塚遺跡13次調査では、弥生時代中期から後期にかけて、平安時代中期から鎌倉時代初頭にかけての遺構が確認されています。今回は、前号で紹介できなかった遺構^{いこう}の紹介をします。弥生時代中期から後期にかけての方形周溝墓^{ほうけいしゅうこうぼ}は、調査





長塚遺跡遺構全体図

地南東で確認できました。S X 4は、後世の削平により壊されている部分もありますが、その検出状況からS X 1と同時期・同規模の周溝墓であると考えられます。平安時代から鎌倉時代にかけての主な遺構は、掘立柱建物^{ほったてばしらたてもの}が少なくとも3棟に多数の溝・土坑^{どこう}が見つっています。掘立柱建物は3棟ともに11世紀代に属するものと思われ、それぞれの規模は、S B 1が5間×4間、S B 2が4間×3間、S B 3が4間×2間となり主軸方向は東へ約45度をしめしています。これらは、隣



▲土器埋納遺構

接調査地点（当調査区より南東部分）で見つかった掘立柱建物群と同一主軸であり、当該地において計画的な建物配置がなされていたことがわかります。またこの時期に属する土坑やピットには、地鎮^{じちん}などを目的として多数の土師皿や黒色土器^{まいのう}が埋納された、土器埋納遺構^{どきまいのう}が10基近く見つっています。その中には、一つの土坑に10枚以上の土器が重なって出土した例や、掘立柱建物を構成する柱穴で埋納が確認できた例もあります。これらの成果は、古代における建物などに対する地鎮^{じしず}めの様相を検討する上で貴重な資料と成りえる



▲長塚遺跡 全体写真

でしょう。調査地内の東部に、掘立柱建物やピットが集中する一方で、特に西部では多数の溝が複雑に絡み合うように確認できました。遺物の出土も多く、土師器や黒色土器、磁器に加えて、土錘や釘などの鉄製品の出土も見られます。これらの溝群は、平安時代中期から鎌倉時代初頭にかけてのものと思われ、掘立柱建物群の時期にも機能していたと考えられます。また掘立柱建物群と溝群が集中する地点を異にしていることは、当該期の土地利用の状況を表しており、例えば居住域と耕作地の差など、集落遺跡の空間構造を把握する上で貴重な成果といえるでしょう。（木下）

2. 焰魔堂遺跡(23次)発掘調査

前号で一部報告させていただきました公園整備に伴う発掘調査からは、耕土のほぼ直下で古墳時代初頭の方形周溝墓、古墳時代前期や後期の溝、飛鳥時代から平安時代中葉にかけての溝などを検出しました。

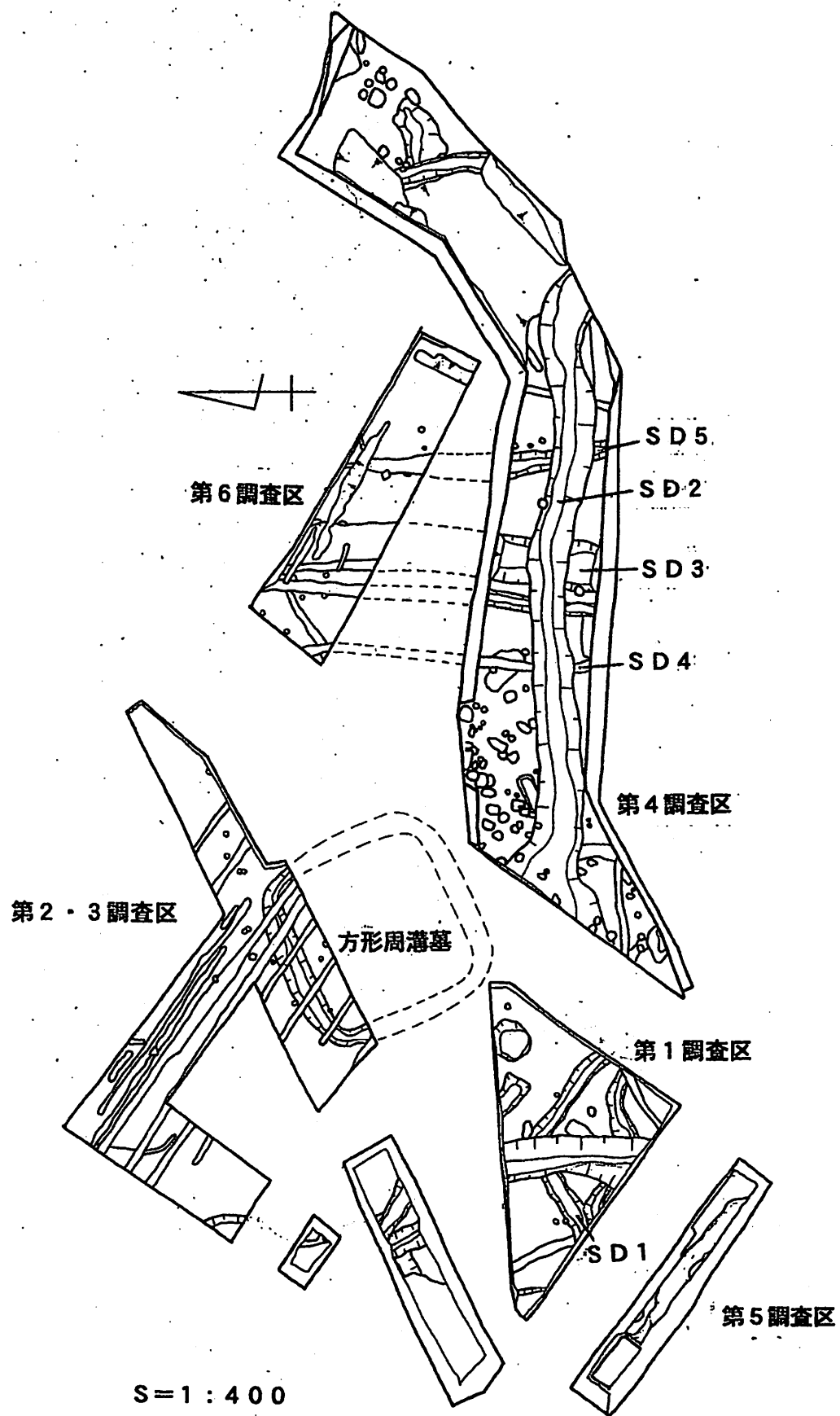
まず、多くの遺構・遺物が確認された第4調査区では、古墳時代初頭や後期の溝、飛鳥時代～平安時代にかけての溝 SD 2 などが確認できました。古墳時代初頭の溝 SD 4・SD 5 は、近接する第4次調査の際に確認されている溝の続きと考えられます。前号でも報告いたしました古墳時代後期の溝 SD 3 からは、碧玉製管玉が出土しています。管玉は6世紀代の須恵器の近くで出土していますが、4世紀代のものと考えられ、溝が埋没する過程の中で混入したものと考えられます。また、調査区北寄りの攪乱土の中からは縄文時代後期以降のものと考えられる石匙が出土しました。近接する経田遺跡や古高遺跡でも縄文時代中期から晩期の遺構・遺物が確認されていることから、調査地周辺にも縄文時代の遺構・遺物が存在する可能性があります。

このほか、第1調査区では、第4調査区で確認されたSD 2の延長が上層で確認でき、下層でからは古墳時代後期の土坑、古墳時代初頭の方形周溝墓の可能性のあるSD 1を確認しました。第2・3調査区は古墳時代初頭の方形周溝墓などを確認しました。確認された周溝墓は一辺約10mで、近接地の第4次調査で見つかった前方後方形周溝墓よりも若干古い時期のものと考えられ、周辺一帯に広がる墓群の中でも古い一群になるものと思われる。

今回の調査では、第4次調査で見つかった前方後方形周溝墓を中心とする墓域の一端や、墓群の中でも古い時期と考えられる方形周溝墓が確認できました。また、第4調査区から第2調査区の西端、さらに第5調査区にかけて遺構面が落ち込んでいくことから、これらの周溝墓群が南東から北西に延びる微高地上につくられていることがわかり、造墓に際しての土地利用が明らかになったことは、大きな成果であったと言えるでしょう。

このほか、新たに古墳時代後期や飛鳥時代～平安時代の溝が確認できたことも、周辺に集落が存在したことをうかがわせる成果になったのではないかと思います。

（平井）



焰魔堂遺跡遺構全体図

新人紹介

井上事務員

4月より埋文センターでお世話になっております井上淳子です。貴重な埋蔵文化財に触れ、古代の守山を感じながら日々、仕事をしております。考古学の事はまったくの初心者ですが、この機会にぜひ勉強していきたいと思っております。来館の際には、お気軽にお声をかけて下さい。どうぞよろしくお願い致します。

歴史入門講座生募集のお知らせ

今年の歴史入門講座は、発掘現場の資料と最先端の科学を利用した調査成果について、そこから浮かび上がる人々の暮らしや環境にスポットをあてて、歴史的な景観の保護と保全を進めるための取り組みと課題を紹介していきます。

1 全体テーマ 『わたしたちの暮らしと遺跡』

2 講座日程

第1回 6月20日(土) 「暮らしのなかの好古学」

講師 平井耕平・川畑和弘(守山市教育委員会)

第2回 7月18日(土) 「DNA考古学—稲・小麦・メロンを中心に—」

講師 田中克典さん(総合地球環境学研究所)

第3回 8月22日(土) 「出土木材から読み解く古代景観」

講師 布谷知夫さん(琵琶湖博物館名誉学芸員)

第4回 9月19日(土) 「人がつくりだした景観を守る意義」

講師 牧野厚史さん(琵琶湖博物館)

第5回 10月17日(土) 「国のまほろば 飛鳥の遺跡とその活用」

講師 西光慎治さん(明日香村教育委員会 文化財課)

第6回 12月19日(土) 「水の浄土^{じょうど} 琵琶湖と大昔の暮らし」

講師 大沼芳幸さん(財団法人 滋賀県文化財保護協会)

3 開催場所 市立埋蔵文化財センター2階会議室(第2回～第6回)

市役所 東棟3階 大会議室(初回のみ)

4 定員 先着 60人

5 開講時間 午前9時30分から正午まで

6 受講料 1,200円(6講座分です。1講座のみ受講される場合は、1回200円です。)

7 申し込み 6月1日(月) 午前9時から受付致します。

お申し込み・お問い合わせは、守山市立埋蔵文化財センターまで

電話・ファックス 077-585-4397